

## 大雨時の狩野川の氾濫を防ぐための今後の対応策は

**問** 台風第十九号により狩野川に氾濫の危険が生じたが、氾濫に対する市民の不安を解消するための今後の対応策は。

**答** 建設部長／台風第十九号における狩野川の水位の状況や今後の気象変動等による豪雨への懸念がある中で、まずは狩野川水系河川整備計画の未整備部分の早期完成が重要であると認識している。そのような中、国土交通省により、下河原地区における堤防整備や大平地区の堤防整備に合わせた樋管改築が進められているが、狩野川水系黄瀬川の大岡地区などのその他未整備区間への優先的

な対策の実施も必要であると認識している。また、ハード、ソフト対策を総合的に推進するために設置した静岡県東部地域大規模氾濫減災協議会などにおいて、国や県、流域市町と連携をしながら対策を進め、市民の安心・安全の向上に努めていきたいと考えている。



▲下河原地区の狩野川堤防工事

## 食品ロスの削減に向けて効果的な周知を

**問** 食品ロスの削減に向けて、市民意識を啓発するための取り組みは。

**答** 生活環境部長／食品ロスの削減に向けては、これまでにエコ料理教室やぬまづ環境市民大学での食品ロス削減講座の開催、使い切り、食べ切り、水切りの三キリ運動の普及などに取り組んできた。今後もこのような取り組みを引き続き行うとともに、食品を残すことがもつたいないという意識が市民に根づくよう他市の事例等を参考にしながら食品ロスの削減に向けた周知に努めていく。

**問** 十三歳未満の児童に対するインフルエンザの予防接種にかかる費用

を助成する考えは。

**答** 市民福祉部長／インフルエンザの予防接種は、かつて予防接種法に基づき学童等を対象に実施されていたが、平成六年の同法の改正により除外され、その後の国における検討会議においても任意接種とすることが適当であるとの結論に至っている。そのため、任意接種とされている子供への予防接種を助成により促すことは慎重であるべきという認識であるが、子供の受験対策や子育て世帯への経済的支援等の観点から、全国の自治体の状況などを考察し、引き続き研究していく。

原 信也 形式 複 合

小泉 宣子 形式 一 括

## 鉄道高架事業の再検討を

**問** 将来的に財政負担を生む鉄道高架事業は白紙に戻して再検討すべきと考えるが、その認識は。

**答** 沼津駅周辺整備部長／鉄道高架事業を初めとする沼津駅周辺総合整備事業は、鉄道による市街地の分断や日常的な交通渋滞の発生などの長年の課題を抜本的に解決し、交通の円滑化のみならず、回遊性や拠点性が向上し、南北市街地の一体化が図られる事業である。さらに、鉄道跡地等を活用することで民間投資が促進されるとともに、その経済効果やにぎわいが全市に波及し、結果として、雇用の創出、交流人口の拡大や

定住人口の確保につながり、ひいては、地域経済の好循環が生まれ、財源確保にも寄与する事業である。また、鉄道高架事業を初めとする沼津駅周辺総合整備事業にかかる今後四十年間における平均実質負担額は一年当たり九・一億円としており、この負担額は、本市の財政規模に照らし合わせても一般財源に占める割合は決して過大となるものではなく、事業の成果を享受する将来世代に負担をお願いすることは合理的であり、本事業は確実に遂行できるものと認識していることから、事業の見直しは必要ないと認識している。

梅沢 弘 形式 一問一答

## 自殺予防対策に向けて密接な庁内連携を

**問** 本市における自殺者数の現状と自殺対策に対する認識は。

**答** 市民福祉部長／平成三十年の本市の自殺者数は三十七人で、平成二十七年から三年間続いた三十九人から二人減の微減の状況となっている。全国の年間自殺者数は平成十五年以降減少傾向にあるが、国の自殺総合対策大綱で述べられているとおり、非常事態はまだまだ続いているという認識を持って自殺対策に取り組んでいく必要があると認識している。

**問** 自殺に追い込まれる人には人間関係等さまざまな課題が複雑に関係していることから、組織的な連携が

必要と考えるが、本市における庁内連携体制は。

**答** 市民福祉部長／自殺予防に対しては、いのちを支える沼津市自殺予防対策行動計画に基づき総合的に取り組んでおり、相談の内容や状況に応じて関係課職員の関与や情報共有、ケース検討を行うなど、円滑な庁内連携に努めている。また、令和元年度に、悩みを抱える人に寄り添って悩みを聞き、必要な支援につなげるゲートキーパーの養成講座を職員に対して開催したことは、庁内連携への意識向上に資するものと捉えており、今後も引き続き取り組んでいく。

平野 謙 形式 複 合